

# 回差点

十年前、アメリカの二つのハイスクールで学生たちと過ごしたことがあり、ジョン君が単純な計算を、トム君が英語のつづりを間違えていたことを思い出しました。「基本的なことなのに。日本ではそんなことはない」と自負したのですが、あれから間もなく、私の周りでも似た状況になりました。

三十年余り自宅で子供たちの勉強をみてきましたが、ここ数年、特に子供の文字に危機感を

抱くようになりました。平仮名、片仮名の書き順の乱れ、漢字を含めて「とめる」「はねる」「はらう」の区別や文字形態の軽視です。子供の責任ではありませんから、誰かが直してあげなければ、大人になっても一生そのままです。

## 子供の文字

筆順が

私の経験の中で、子供が間違えたり、<sup>筆順が</sup>あまいままになつたりしている八文字と十組を整理してみました。「う」「せ」「と」「な」「も」「や」「よ」「ら」「ソ・ン」「ソ・リ」「シ・ツ」「メ・ナ」「モ・モ

「ら・5」「ク・ワ」「ワ・ウ」「セ・セ」「コ・ヨ」です。低学年でいったん身につけてしまった間違いは、なかなか直りません。学年を問わず、気付いたときにすぐ注意し、書かせることを繰り返します。

今、子供の筆箱の中は鉛筆よりシャープペンシルです。フツンフツンと細いしんが折れ、当然、貧弱な文字となります。しかも下敷きなしのノートです。書道学習も遠のきました。私はその流れに抗することができません。願うこ

とは、子供の文字を見直し、正しく身につけさせていたいただきたいのです。将来を担う子供たちが、きちんとした文字を書けなかつたら、日本の命にかかわることになると思います。

文字はパソコンや携帯電話で情報を伝達する記号ではなく、私たちの存在の証し、価値、文化そのものです。日本語を大切に社会でありたいし、子供に伝えなければなりません。もうすぐ夏休みです。家庭で子供の文字と手元に気を配り、間違いは少しでも早く直してあげることが望むものです。

(波田町、古畑博子、57歳)